

2011
秋のライラ

RYLA



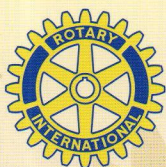
人多き、人の中にも
人ぞなき
人となれ人、人となれ人

報告書 ROTARY YOUTH LEADERSHIP AWARDS

テーマ
「日本人の誇りを取り戻そう
- 21世紀の君たちへ -」



開催日: 2011年10月8日(土)・9日(日)・10日(日) (体育の日)
開催場所: 大阪科学技術センター大ホール・大阪府立少年自然の家
主催: 2011-2012年国際ロータリー第2660地区ガバナー 岡部泰鑑
2011-2012年国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会
ホストクラブ: 東大阪みどりロータリークラブ



■ 主催

国際ロータリー第2660地区

国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会

■ 運営

国際ロータリー第2660地区

国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会

チームライラ初級ライラ担当

チームライラ上級ライラ担当

東大阪みどりロータリークラブ

■ 協力

大阪難波ロータリークラブ 10秋のRYLA実行委員会

チームライラ

RI第2660地区ローターアクト委員会

八尾ロータリークラブ

大阪柏原ロータリークラブ

八尾東ロータリークラブ

八尾中央ロータリークラブ

東大阪ロータリークラブ

東大阪東ロータリークラブ

東大阪中央ロータリークラブ

東大阪西ロータリークラブ

大阪ネクストロータリークラブ

大阪大淀ロータリークラブ

箕面ロータリークラブ

大阪城南ロータリークラブ

国際ロータリー第 2660 地区
2011年 秋のRYLA

ロータリー青少年指導者養成プログラム

テーマ 日本人の誇りを取り戻そう
- 21世紀を担う君たちへ -

目次	頁
初級ライラ・プログラム	2
開講式	3
開講宣言	4
ガバナー挨拶	5
基調講演「日本人の誇りを取り戻そう」	6
講演「まちづくりは人づくり」	9
PHOTO REPORT	12
卓話「ロータリーとは」	14
グループレポート	16
チームライラの頁	21
上級ライラ・プログラム	22
上級ライラ活動報告	23
閉講式	24
ガバナーエレクト挨拶	25
委員長講評	26
パストガバナー挨拶・ローターアクト代表挨拶	27
閉会の辞	28
クラブ別登録会員数・受講者数	29
相馬ロータリークラブからのお礼状	30
収支決算報告	32

2011秋RYLA 初級プログラム

時 間	10月8日(土)	10月9日(日)	10月10日(月・祝)	
7:00	《大阪科学技術センター》 《大ホール》	起 床	起 床	
7:30		朝 礼 《つどいの広場》	朝 礼 《つどいの広場》	
8:15		朝 食	朝 食	
9:00		実習2 《研修室(中)》 講 演 「まちづくりは人づくり (リーダーシップ)」 講師 萩原茂裕	実習6 《研修室(大)》 ・グループ発表準備	
12:00		昼 食	昼 食	
12:30				
13:00			実習3 《いろりの館》	実習7 《体育館》
14:00		受 付	・What's my communication Style? ・ジャングルからの脱出	・グループ発表
15:00		開講式 基調講演		閉講式 《体育館》
16:00		「日本人の誇りを 取り戻そう」 講師 青山繁晴	実習4 《いろりの館》 コンセンサス実習 (NASA)	解 散 ※解散後、バスにて 大阪地下鉄 御堂筋線「本町」駅へ
17:00				
17:30	大阪府立少年自然の家に移動			
18:00				
18:30	部屋割・夕食	夕 食		
19:00	実習1	入 浴		
19:30	《オリエンテーションホール》			
20:00	・オリエンテーション ・チームビルディング ・アイスブレイキング	実習5 《研修室(中)》		
21:00	入 浴	・卓話 「ロータリークラブとは」 担当 杉森隆志		
21:30	自由時間	・ロータリーパパとの座談会		
22:30	連絡会議	連絡会議		
23:00	消灯・就寝	消灯・就寝		

開講式



ソングリーダー
阪口 忠士



点鐘
会長 井上善博



司会
上田 純一



主催者

開講式会場
大阪科学技術センター
大ホール



開講宣言

東大阪みどりロータリークラブ
RYLA 実行委員長

北井孝彦



本日ここに、RI第2660地区2011年秋のライラ開講式をたくさんの皆様を迎え開会できますことに、ホストクラブ一同心から感謝を申し上げます。

さて、日本は今、東日本大震災はじめ様々な困難に直面しています。この困難を解決する唯一の鍵は、自国への誇りと自信を持つことだといいます。しかしながら、日本人は自国に対し誇りと自信を持っているとは言えません。

この原因は、66年前日本が、戦争に負けた後の米国による日本を骨抜きにするための占領政策にあると思います。学校で、戦後自虐史観に基づく教育がなされてきた結果だと思えます。

「歴史を忘れた民族は滅びる」といいますが、日本では、戦後その素晴らしい歴史を教えてこな

かったわけでございます。いわば日本は民族滅亡の危機に直面しているといえます。

このライラでは、素晴らしい日本を再認識し、自信と誇りを取り戻していただきたいと思えます。そういう主旨から「日本人の誇りを取り戻そう」をテーマとさせて頂きました。

なお、本日ここに福島県のRI第2530地区相馬RCの武島様はじめ5名の参加者をお招きすることができました。改めて東日本大震災のお見舞いを申し上げますとともに、参加者の皆さんには、このライラで学ばれ、各々の持ち場で指導力を発揮して頂き、復旧・復興の一助となりますれば、我々の本志と致すところでございます。

それでは、2011年秋のライラの開講を宣言致します。



今回お世話になったチームライラのメンバー

ガバナー挨拶 ライラについて

RI 第2660地区ガバナー
岡部 泰鑑



今年の秋のライラは10月8日(土)～10日(月・祝・体育の日)にかけて大阪科学技術センターと大阪府立少年自然の家(貝塚市)を会場にして行われます。

ホストクラブとして東大阪みどりRCの皆様のご努力によりまして開催に至りましたことを心より嬉しくかつ感謝申し上げます。本年3月11日に起こりました東日本大震災の影響が計り知れないほど大きな傷跡を残し、私達にとっても他人事ではありませんでした。中止やむなしの声もある中で、開催出来ましたのはホストクラブの東大阪みどりRCの皆様および地区委員の方々のご努力によるもので、重ねてお礼申し上げます。

今年は「日本人の誇りを取り戻そうー21世紀の君たちへー(リーダーに求められるもの)」というテーマで開催されました。この3日間を通じての体験こそがこれからの未来へ向かっての第一歩となることと思います。

RIは昨年度より従来の四大奉仕に新世代奉仕部門を加えて五大奉仕部門としたことは新世代の方々に対する大きな期待を寄せてい

ます。

RYLA(Rotary Youth Leadership Awards)は、若い世代の皆様が秘めているリーダーシップの可能性をより一層伸ばす為にロータリアンと一緒にこの3日間の共同生活「ロータリーパパ制度」を通じてロータリーの価値観を肌で感じ資質を伸ばす為のロータリークラブのプログラムです。

RYLAを通じて学ばれたことを心の糧として今後、様々な分野においてご活躍されることと存じますが、今回のこの研修で取り組んだことを十二分に活用いただきたいと思います。

皆様にとって実のある、実りの多い「秋のライラ」となりましたことを確信いたしましてご挨拶といたします。

最後になりますが、重ねて秋のライラをご準備いただきました方々に心よりお礼申し上げます。

合掌

基調講演

「日本人の誇りを取り戻そう」 -21世紀を担う君たちへ-

独立総合研究所代表取締役
青山 繁晴氏



今日は幅広い年齢層の方々ですので、どなたにも分かって頂けるようなお話をしたいと思います。私は10年以上前から「祖国は蘇る」という演題でお話をさせて頂いています。おりしも3月11日に東日本大震災が起こり、福島原発問題は今も続いています。今日は大震災後の日本だけではなく、たった一度だけ戦争に負けた66年前の敗戦という根っこから考えてみたいと思います。

本日のレジュメは、「祖国は蘇る」という結論だけははっきりしていますが、あとは全て問い掛けになっています。私がテレビに出させて頂いている目的は一つ、この国を、66年前の根っこに戻したい、私の話はあくまでも問題提起、きっかけですから、少しでも感じるものがあれば、自分の頭で考えて下さい。この国の主人公は若い人たち自身です。そして責任者もあなた方です。

私の胸についているバッジ、これは拉致被害者救済バッジです。100人以上の日本人が、この瞬間も北朝鮮に誘拐されたままです。付けた以上は最後の一人が帰ってくるまでははずすことはできないと思っています。横田ご夫妻は34年間娘を失ったまま、生きてることが分かっていても誰も助けに行かない、我慢して我慢して耐えておられます。

何故行かないのか、それは戦争に負けたからだと言われました。世界中の国々は戦争に勝ったり負けたりを繰り返してきました。負けた時こそ、どうやって自分たちの長い伝統を守り、国民を守るのかということに勉強、練習、訓練してきたのです。日本だけは66年前に初めて負けたので、敗戦国は勝ったアメリカの言うことを聞かなければならないと思い込んでしまった。それが国民が誘拐されても手の打てない原因になっています。戦争に負けて軍隊を持たない、新しい民主主義になりました。民主主義と言えばアメリカに教えてもらったのではなく、日本のオリジナルな民主主義がずっと昔からあります。京都にある御所、2000年の伝統を背負った天皇のお住まい、何にも阻まれずお堀もなく、普通に塀を触れます。天皇陛下のお住まいが見えます。護るものが何もない、一番大事なものは国民だから、その伝統の中に生きておられるから襲われる心配もありません。もう一つは仁徳天皇の「民の釜処」の話、仁徳天皇がご自分の宮殿から民(私たち)の家々をご覧になった時に、夕ご飯時になっても釜処から煙が上がらない。釜処から煙が上がらないという事は「ご飯を食べられない」、それは「税金が重過ぎるのだ」と

いう事を陛下自らがお考えになって、ご自分の食事を質素にされ宮殿の屋根の葺き替えも見送られて、長い時間それに耐えられた。そしてまた民の釜処から煙が上がるのを自ら確認されてから、食事を元に戻され屋根の葺き替えもなさったということです。これを現在の言葉でいうとまさに民主主義です。敗戦後、その後に自衛隊ではなく、新しい、むしろ本来の日本の民主主義に戻った軍隊を持つべきでした。

話は戻りますが、横田めぐみちゃんを取り戻すことは、国際法で戦争ではなくて、自国民の正当な救出活動だということが明らかであり、国連は必ず支持の決議をしてくれる、これが国際社会の常識であるのに、何故日本は何もしないのかということドイツの方に言われました。青いバッジは海の色、何故私たちは狭い日本海を越えて助けに行くことができないのか。

アジアは今後どうなるのか、中国が強くなればなるほど独裁主義になるのか、苦しくても時間がかかっても民主主義で行くのか、それがアジアの選択です。その時にアメリカから持ち込まれたものではなく、日本の中で育まれた民主主義の値打ちを、アジアの世界に知らしめることが、アジアを良くすると思っています。

皆さんは、安倍内閣は記憶に新しいと思います。安部政権は、本当は大きな仕事をしました。教育基本法の改正、介護基本法の制定、国民投票法の成立、国民投票法の成立によって憲法改正に大きな一歩を踏み出しました。若者に言いたい

のは憲法を変えられる18才になったのに、何故参議院選挙に投票できないのかと、日本の若者は一人も疑問を持たない。これが日本の現状であり、世代を超えて考えなければならないことだと思います。

福島原子力災害から1年後、10年後、100年後、100年後にまだこの問題は終わっていないと思います。私は共同通信の記者を20年間務め、在ペルー日本大使公邸占拠事件取材し、日本人人質24人が武力突入で全員無事に救出されて、救ったフジモリ大統領はヒーローになりましたが、そこにある真実を記事にできなかったことで私は記者を辞めました。そして思ったことは、20年間で見た日本社会の一番深い矛盾を考えていこうということでした。



国家安全保障というのは、戦車とか戦闘機を必要最小限持つこと、そして本当に一番大事な柱はエネルギーです。エネルギーを作るのは原子力発電を別にするとほとんどは火力発電所、原料となる石油と天然ガスは、国際石油資本というところが値段を決めて、戦争に負けた日本は言い値で買ってきました。これを変えなければならないと

この度の原子力災害について言えば、日本の原発は最高の技術と安全に力を入れてきました。福島県川内村への一時帰宅、二ヶ月間も倒れていた位牌の線量を計測すると、全然問題ないレベル、つまり政府の避難指示は明らかに間違っていたということになります。福島では一人も放射線



障害で亡くなった方もおられず、治療を受けた方もおられない、但し、若い人、更に子供たちはこれからもずっと気をつけなければなりません。福島から出た放射性物質とチェルノブイリとは全く違います。私が一番初めに現地に行ったのは4月15日、桜が満開で美しく咲き乱れた中で鳥のさえずりが聞こえていました。民家を見るとテーブルの上に食べかけのご飯、子供のおもちゃ、田畑には使いかけ農機具、足元に猫や犬が寄ってきました。平和な美しい日本の農村、そこに人間だけがない。何とも言えず恐ろしさを感じました。「死の村」と言いかけて、思わずハッと気が付きました。「死の村」ではない、「福島を新しいところにする、自然エネルギーの聖地にする」というのは間違いです。みんなここで、地元で生きて、命を手渡してきました。誇りを持って生きてきました。復興とは元に戻ることに、自分の家、会社、学校に戻るこ

と、そこから未来を考えなければなりません。また、福島第一原発の処理が、進んでいけばいくほど、信じられないような濃度の濃い放射性物質もたくさん残ってしまう、それをどこで処理するのか、おそらくは第一原発と第二原発の構内を使って引き取るしかないという現実があります。

4月22日、実際に原子力発電所の構内に入ってきました。福島第一原発の所長さんに大歓迎を受け、許しを得てカメラで撮影させて頂きました。私という民間人、それから全く中立の立場の人間をこの現場に入れてくれたというのは、事実を国民に知ってほしいということだと思っています。福島原子力災害で、放射線が出ていることも重大ですが、それよりもっと怖いのはもう一度津波が来ることです。今まで受け止めていたものが何もない、今度こそチェルノブイリと同じことが起きかねないということをおっしゃっています。どんな組織にも必ず良心的な人間がいて、国民と連携すれば、祖国は必ず蘇ると確信しています。

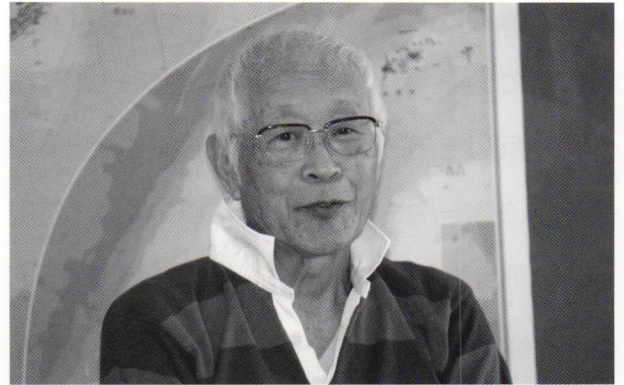
私たちが今こそ考えなければならないこと、沖縄戦で、学徒看護隊といえば、ひめゆり部隊が有名ですが、他に白梅学徒隊というのがあり、白梅之塔があります。少女たちは短い命を終えましたが、私たちが後を継いで人のため、みんなのために生きる日本国民が続いています。この日本は本当はどういう国なのか、アジアに何を語りかけることができるのか、それを分かって頂ければと思います。本日はありがとうございました。

講演

「まちづくりは人づくり」 (リーダーシップ)

日本ふるさと塾

萩原茂裕氏



今日はまちづくりの提案者ということでお話をさせていただきます。「馬鹿と煙は高いところに上がる」と言われますが、私は高いところが大好きです。飛行機の操縦、学生時代は山岳部とスキー、もう一つはバルーンで、最長滞空時間は2時間半です。まちづくりも上から見る、どこへ延びたいか、そのまちの人の心が分かるような気がします。私は東大阪に燃えています。

私は北海道旭川市生まれです。その旭川に昭和37年、38才の五十嵐広三市長が誕生しました。商品の大切なことはその用途をはっきりさせること、これをまちに置き換えるとテーマを作ることであり、「人間都市旭川」としました。駅前メイン通りを日本初の恒久的歩行者天国平和通買物公園にするなど、これには10年を要しましたが、彼は決して諦めませんでした。このようにして旭川は素晴らしいまちになりました。言えるのはまちづくりに不可能はない、但し、継続すること、つないでいくこと、地域の後継者、市長、町長、村長は市民の中から後継者となり得る人物を育て上げます。

日本ぐらい、ジョーク、ユーモアを理解しない国はないと思います。アメリカのユーモアは素晴らしいです。皆様方はこれからリーダーとなられる

方々だと思しますので是非ユーモアを解して頂ければと思います。

私は北海道生まれで、40何年か頃に、北海道庁の要望で北海道全域の観光計画を立てることになりました。故郷からの依頼が非常に嬉しくて、こんな名誉なことはありません。北海道特有の雪を嫌がるのではなく、テーマを「冬こそ北海道」と提案しました。何故北海道が発展しないのか、東京へ出て行きたがるのか、恐らく故郷を愛していないからでしょう。地元を好きにならないとまちの発展を望むことはできません。北海道は北の端、九州は南の端、どうして端だと決めつけてしまうのか、真ん中だと、中心だと考えればいいわけです。心の位置を変えて自分のまちを見ること、心の位置を変えられるような人をつくることではないでしょうか。心の位置を変えれば新しい発見が沢山あります。東大阪が正にそれでした。花園ラグビー場があります。私が提案した時には「ラグビーだけで町おこしにはならん」と言われ、近鉄が撤収しようとしてまで考えましたが、踏み止まってくれました。言い続けていくことで市民権を得て東大阪の顔になります。まちづくりは子供への贈り物です。まちは色々なことを教えてくれます。

私の恩師はマスコミの帝王と言われた大宅壮一先生です。色々なことを教わった中の一つ、それは化学反応を起こして、違ったものを作り出すことが、人生で一番大事なことだと思えます。

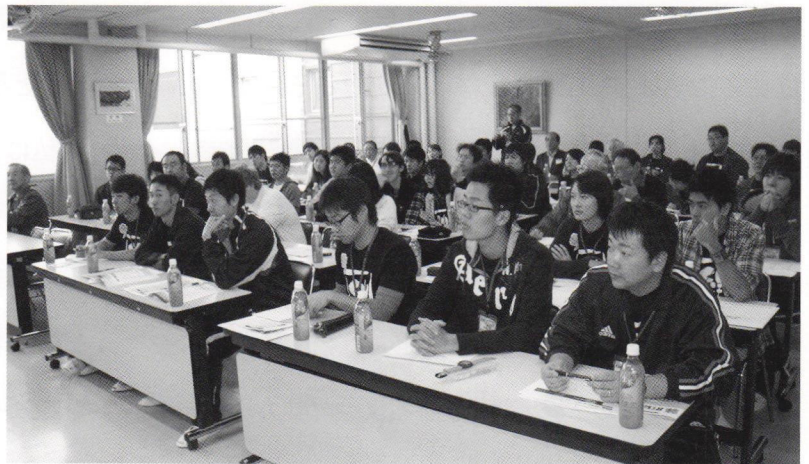
自分のまちの中には情報が沢山ありますが、まちを評価する最たるものは人口規模では困るのです。歴史が違う、自然が違う、歴史を調べると素晴らしいことが沢山出てきます。気質、性格、県民性が違います。地元の特性を生かすことです。それには市史、町史、村史をひもといてみて下さい。

日本のお祭りは祖先の霊を祀るもの、それが今は見世物になっています。探っていくと必ず感謝の拠りどころがあります。それを考えないとお祭りは長

く続きません。世を去った素晴らしい方を掘り起こしていくことが大切です。地元を見直して下さい。材料がいっぱいあるはずですよ。沖永良部島に行った時のこと、片田舎で会う人のお話に品がある、聞いてみると西郷隆盛公が流れてこられたことがあり、何百年たっても地元の人たちを育てていました。親の後ろ姿を見て子供は育ちますので、背筋をピンと伸ばすこと、教えてないようでつながっていきます。

東大阪の話に戻ります。企業の中には宇宙に携わっている方が沢山いらっしゃいます。心があるから中小企業の方々の力は強く、ありがたい気持ちがあります。イベントをやっても心がないと駄目、まちをつくるのは人づくり、単に金儲けのためにやっても駄目です。

皆さんは北海道というところの景色を連想されますか。富良野をご存知でしょうか。特急が止まらなくなり、何とかしなければと私に声がかかりました。まずは地元の材料を使ってのテーマ設定、どこにでもあるものではなくて、「あのまちだ」と分かるようなテーマを設定します。富良野は北海道の中心ですので「北海道のヘソのまち富良

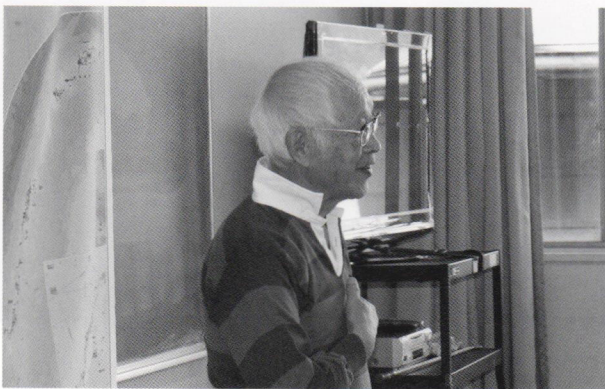


野」としました。何をヘソにするのか、西武さんにスキー場の整備、ホテルの誘致、人材の育成を持ちかけて成功しました。ただ、旅館業者の反対がありました。そこはリーダー、市長がしっかりと構えるとやれるものです。当時はラベンダーもなくてホテルの初代支配人が提案したものです。ドラマ「北の国から」で更に有名になりました。次に出てきたのがオリンピック誘致の話、結果としてはワールドカップの会場になって、今やスキー都市となっています。

私の住んでいる茨城はこの度の震災で被害を受けました。震災で思い出すのは雲仙普賢岳、平成2年から8年まで続きました。平成6年2月27日に一番被害のひどかった深江町に記念講演に行きましたが、町長さんは10日間、町長室で寝起

きしたそうです。会場となった体育館は満杯、何かを求めて来られたのでしょうか。私は、「皆さんは山が憎いでしょうが、世界中から義援金が寄せられたことに感謝して下さい。その気持ちがないと、子供たちはこの土地から逃げてしまいますよ」と言わせて頂きました。そして町長さんは合言葉として「ありがとうございます」を提案されました。私はドキッとしましたが、誰一人声を荒げる方はいらっしゃいませんでした。私がここに来られたのも「ありがとう」にご縁があるからです。

日本人は感謝民族です。私は戦争中の人間です。ので学徒動員で男手のない農家に働きに行きました。炎天下に田んぼの畔道に立つとやりたくない、見ているとご老人が腰を曲げて農作業をされています。代々田地田畑を受け継いで守っている、それは凄いことです。日本の宗教は感謝宗教、祖先を敬う宗教、神様、仏様です。風土、自然が

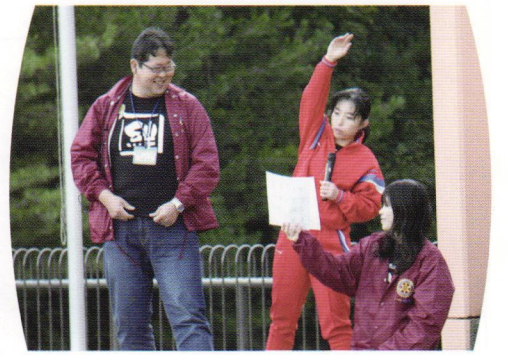


培ったものだと思います。空気、草花、そよぐ風が感謝を教えてくれます。古き良き時代の愛国心、そういうことを大人が教えてきませんでした。私の孫は小学校卒業と同時にチェコに行きました。お正月に帰ってきて、向こうの生徒たちに初めて言われたことは「日本の国歌を聞かせて」というもので

驚いたそうです。自宅の前が通学路になっており、孫が登校中の中学生を見て「日本の中学生は楽しそうじゃないな」と言っていました。

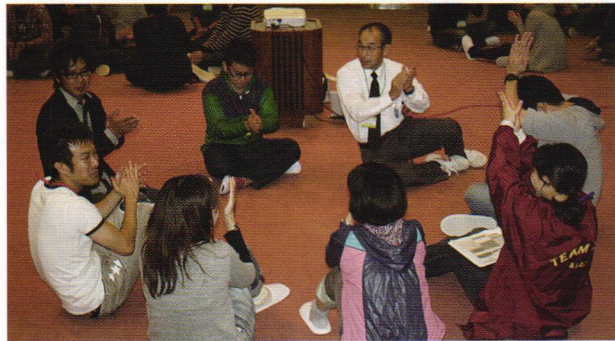
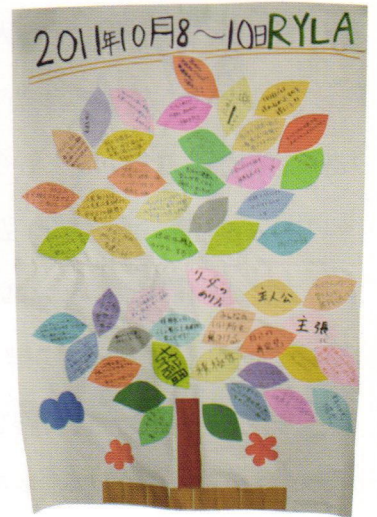
日本人はどんな人間か思い知らされたことがあります。昭和43年、当時、日本は学生が荒れていました。卒業式も入学式もできませんでした。それを憂いた偉大な人物、それが私の恩師、大宅壮一先生です。彼らは視野が狭い、世界中を見せなければ駄目だと、お金を集めてギリシャから客船を借りて、日本中の学生を公募し、700名を船に乗せて旅立ちました。これを太平洋大学と言います。名誉学長は大宅壮一先生、学長は大森実氏、講師の一人として私も乗りましたが、その船はミッドウェーを通りました。ミッドウェー海戦のことはご存知だと思います。16～17歳の若者たちが戦闘機で飛び立ち、帰ってきたら迎えてくれる航空母艦がない、3,000名以上が戦死されています。学生たちは模造紙に日の丸を書いて、千羽鶴を折って、花束を海に投げました。それらは浮くことなく、海中にすっと吸い込まれて、何とも不思議な感覚だったことを覚えています。彼らの口から出た歌は「海ゆかば」でした。

日本は戦後、あの焼野原から復興しました。それは日本人の持つ心だと思います。故郷へのUターンということをいいます。それは働く場所がなければできませんが、できるUターンがあることに気が付きました。それは頭脳と心のUターンです。皆様も故郷に思いをはせて下さい。皆さん、3時間お付き合い頂きまして有難うございました。

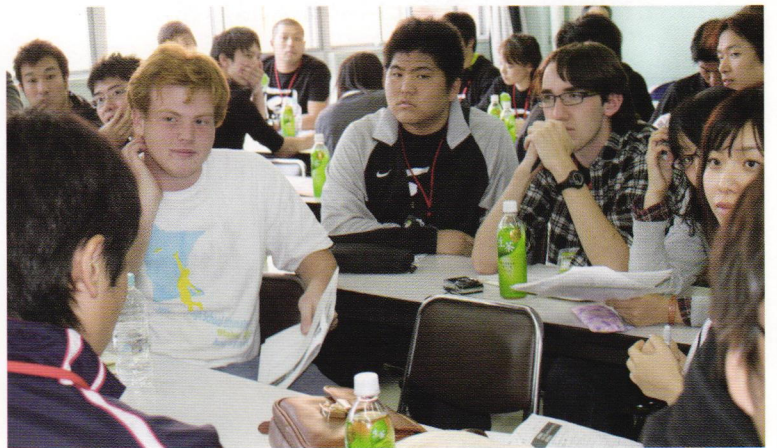


photo

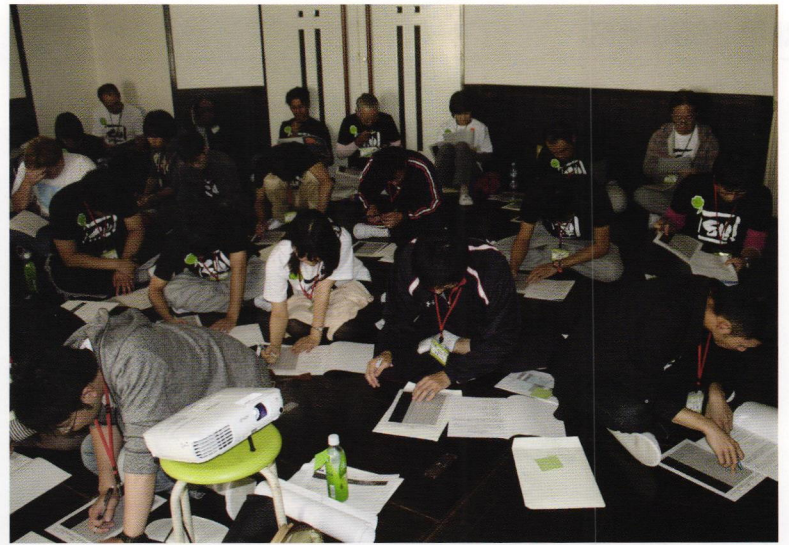
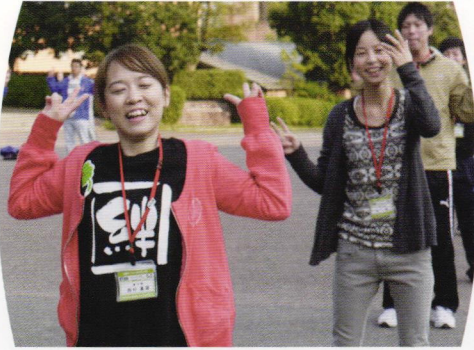
朝の体操と
スケジュール説明



研修風景



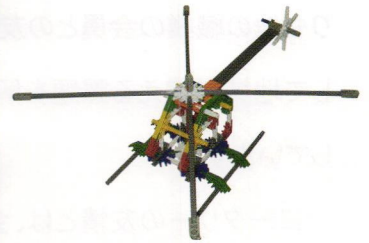
研修場所 大阪府立少年自然の家



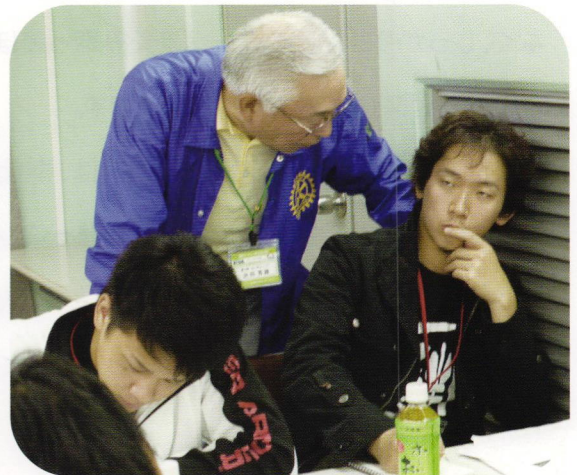
report



つどいの広場に集った
皆さん



実習「ジャングルからの脱出」
で作製したヘリコプター



卓 話

ロータリークラブとは

東大阪みどりロータリークラブ

杉 森 隆 志



ロータリークラブは1905年にアメリカのシカゴのポール・ハリスという青年弁護士が友情と仕事の相乗効果を狙って発足させました。同業者よりも他の職業の会員との友情を育て、互いに協力して地域が抱える課題を解決していくことを柱としています。

ロータリーの友情とは、会員同士が仲良くするだけでなく、奉仕活動の基盤となるつながりがなければならないことが特徴と言えます。奉仕という言葉は、SERVICEという英語に一番近い日本語をあてたものですが、正確に表現しているものではなく、一言ではなかなか言い表しにくい部分でもあります。「人とか地域にニーズがあり、そのニーズを満たしていこうとする行為」と言っても良いと思います。つまり、一方的に行動するものではなく、しっかりと相手のニーズをくみ取ってほんとうのサービスが出来るものと思います。

2660地区の戸田パストガバナーは、奉仕の理想について「お母さんが赤ちゃんと抱っこしながら心から慈しんでいる有り様」と表現され、人に対する思いやり、助け合いの気持ちを持つことが奉仕活動の基本と言えます。

奉仕の具体的な活動として五大奉仕というも

のがあります。簡単に言うと、

1. クラブ奉仕とは、クラブの機能を充実させる為に会員が行うべきこと
2. 職業奉仕とは、日々の仕事の品位と道德水準を高め、自分の会社だけがよくなるのではなく、世の中に貢献すること。
3. 社会奉仕とは、ロータリーメンバーが奉仕の精神を持って地域社会に対して奉仕活動を行うこと。
4. 国際奉仕とは、海外の国々に人道的な支援や親善、平和を推進する活動を行うこと。
5. 新世代奉仕とは、次代を担う30歳までの若い人に対して、自己啓発や教育、健康などの基本的なニーズを支える活動を行うこと。

大別すると以上の5つです。今回のRYLAは、この新世代奉仕の中の一つのプログラムで、若い人達の指導力の資質を高める目標があります。僅か三日間の研修ですが、何かを得て頂き、その成果を色々な所で役立ててもらいたいと思います。

以上のような五大奉仕が奉仕の実践の内容を示すものでありますが、ロータリーメンバーの自己評価の為のテストのようなものに以下のような四つのテストというものがあります。

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか。これはいつも例会場に掲示されていて、一般の社会人にも理解出来るもので、奉仕活動を行う上で基本となるものです。

話は変わりますが、今回のRYLAが行われている貝塚市はお寺が多く、有名な仏像があります。仏像の顔のほとんどは「半眼」と言って半分目を閉じている表情のものが多く、これは自分の前の出来事もしっかりと見ないといけないけれども、半分は自分の心の中も「嘘や偽りがなくいつもチェックしなさい」ということを教えてもらっています。それと同様に私達も四つのテストをして時々自分の日頃の言動を顧みて、正しいか道理に反していないか考えなければいけないと言うことです。

さて「運が悪い、悪い」と、よく言いますが、運には、大運、中運、小運の三つがあり、大運とは上記のように人間に生まれること。中運とは、日本という国の今の両親の元に生まれるようなことで、言わば大運、中運はどうにも変えられることが出来ないものですが、小運とは、学校進学、就職、お金儲けなど自分の努力で何とでもなるようなことです。自分が運が悪いと思っている人がいますが、それは自分でこれらの運をつかもうとしていないから「自分は生まれつき運が悪い」とあきらめてしまうのです。自分にとって今の状況は大変幸運であり、この運をベースに毎日を生き生きと生きることが大切なことだと思います。

皆さんは座右の銘をお持ちでしょうか。私は

「志を楽しむ」という言葉を座右の銘としているのですが、何年か前に千日回峰行を満行された光永覚道という方から戴きました。千日回峰行とは、天台宗の修行の中で最も厳しい修業の一つで、百日間を一区切りとして、7~8年かけて千日を行ずるわけで、比叡山の諸堂で毎日お経を唱えて何か所も回峰する厳しい行で、一日たりとも休めない決まりがあります。初めは何と厳しい修業であると思っていたが、途中からこの修業が出来る自分に喜びと楽しみが沸き出るようになり、同時に今まで自分を支えてもらった人に対する感謝の気持ちが込み上げて来て涙が止まらなくなり、「志を楽しむ」という言葉が出てきたそうです。人間は自分を知らないような潜在能力を持っているもので、それを引き出すチャンスは自分でつかむこ



とが大切なことであると思います。

今回のRYLAに参加された方はそれぞれの立場が違いますが、色々なプログラムや多くの人との出会いのご縁を生かしてリーダーシップはもとより自分の能力を発揮するきっかけとなり、社会に大いに貢献されますことを心より願っています。

グループレポート



第1班「じゃ 松井くんで・・・」

山本 紋寛 (大阪南 RC 推薦)

松井 良輔 (吹田江坂 RC 推薦)

和田 琢磨 (東大阪 RC 推薦)

白石 武史 (吹田西 RC 推薦)

西川 隆生 (大阪東 RC 推薦)

石突 喜通 (相馬 RC・東大阪みどり RC 推薦)

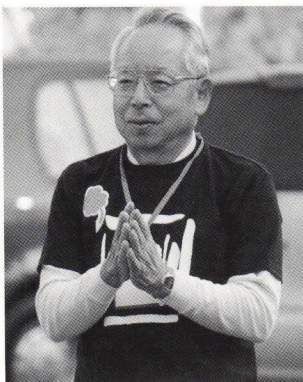
藤田 和世 (大阪北 RC 推薦)

ライラでの3日間はリーダーシップについて考えるいい機会でした。僕の中で一番心に残っているのは、「全員がリーダーではまともまらない」という僕の班のメンバーから出た言葉です。その言葉の意味を実感したのが「ジャングルからの脱出」～チームビルディング～というプログラムです。自分たちのいる部屋から隔離された場所にあるヘリコプターのおもちゃを一人ずつ観察し記憶力を駆使して自分たちなりの設計図を作り、部品を組み立てていくというこのプログラムでは、メンバーの「自分が自分が」という姿勢がぶつかり合い、うまく進みませんでした。その状況を見ながら、しかしどうしたらいいのか分からず悶々とした思いを抱いていました。“リーダーとはど

うあるべきか”という問いを突き付けられた瞬間でした。そんな中突破口を開いてくれたメンバーがいました。そのメンバーは全体を俯瞰するように役割分担をし、弱冠暴走気味だったメンバーたちの歯車がきちんとはまるように働きかけてくれました。リーダー1つにしても色々なやり方があるのだと知り、個々人それぞれの個性を活かしたリーダーシップをとるのが大事だと学びました。

最後に、とても楽しいメンバーの皆さんと笑顔が素敵な癒し系の石渡ロータリーパパと同じ班で活動が出来てとてもいい思い出が作らせて頂きました。有難うございました。

(松井良輔)



パパの一言 石渡善一

第1班のチーム名《じゃあ松井君》は、皆に選ばれた連絡係松井君に因んだものである。これまで面識の無かった若人が集まり、2泊3日の研修を受け、中身の濃い成果を挙げた。最終日に、“リーダーの四本柱”は、役割・経験・責任感・積極性にあるとし「1班の樹」を書きあげた。パパも若い仲間に入り、貴重な体験を自分史に書き加えた。大きな喜びである。この経験を糧として、若者たちが各分野で良きリーダーとなり、次世代の日本国作りに躍進してほしいと切望する。



第2班「ALL-Ossans」

Logan Karl SHOTTROFF (大阪うつぼ RC 推薦)

Henry Rizzi (高槻西 RC 推薦)

中村 翼 (大阪南 RC 推薦)

岡野 義和 (大阪中之島 RC 推薦)

高見 誠 (高槻東 RC 推薦)

伏見 一仁 (相馬 RC・東大阪みどり RC 推薦)

森井 永実 (吹田江坂 RC 推薦)

石橋 宏美 (大阪御堂筋 RC 推薦)

学んだ事は、今からすぐハンディなしに誰もが始められる事です。青山繁晴さんのような相手の気持ちまでも熱くさせる熱意をもち、萩原茂裕さんのように、どんな事にも感謝し、その気持ちを“ありがとう”という感謝の言葉にして相手に届け、ロータリアンの皆さんのように前向きに進む。人見知りを克服したい男の子、就職難に悩む大学生、就職までの残りの時間をどう過ごすか考える学生、日本語を学ぶ高校生、福島から来られた社会人、企業派遣の社会人、そしてロータリーパパ。普段生活しているだけでは会えない人であり、グループのメンバーでなければ話をしなかったかもしれない人達です。最初は言葉の壁、年齢の壁、意見の相違がありました。でも最後にはライラが終わってしまうのが寂しいと思

える仲になれました。今思えば、全く異なったメンバーだからこそ面白かったのではないのでしょうか。

人見知り、就職難、限りある時間、言語、わからない未来、厳しい仕事。何歳になっても悩みはあるし、今の自分より前に進もう、変わろうと思うからこそ悩みはできるんだなと思いました。だから、相手が今悩んでいる事はいつか自分も悩む事であるかもしれないと思い、私は相手の気持ちに少しでも寄り添ってあげられる人になりたいです。

Where there is a will, there is a way.

「意志のあるところ道あり」

ロータリーパパの言葉、大事に心にしまっておきます。

(石橋宏美)



パパの一言 井上善博

現役クラブ会長でありながら、ロータリーパパの経験をさせて頂きました！肉体的にはかなりハードでしたが、本当に充実した時間でした。

私の班はアメリカ人二人、福島からの参加者一人、女性二人、大学生一人、社会人二人とバラエティに富んだ構成ながら、みんなでよく意見を出し合い、団結して、最後の発表にはダンスや俳句で学んだ事を表現してくれました。とても微笑ましく感動的であり、彼らの今後の歩む道の上で幾ばかりかのヒントになれば更に嬉しく思います。



第3班「ヒトミシリ」

西村 幸高（高槻東 RC 推薦）

佐藤 晋輔（相馬 RC・東大阪みどり RC 推薦）

折寄 九馬（大阪梅田 RC 推薦）

平岩 志洵（吹田江坂 RC 推薦）

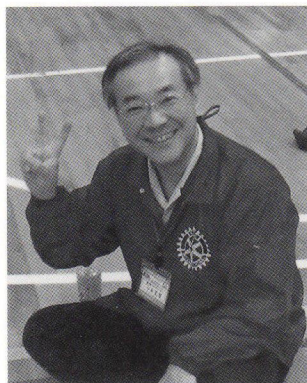
藪野 真樹子（大阪咲洲 RC 推薦）

私はライラのイベントを通して、自分の自主性や発言力のなさを感じ、これからその二つをあげるためにどうしたらいいかを考えるいい機会になりました。最初の青山さんの講演では、自分の知らなかった領域に関して様々なことを教えていただき、青山さん自身が思うリーダーシップについて、自分の意思を貫き通すところがすごいなと思いました。自分は、周りの意見に惑わされているところがあるので、自分の意思をきちんと持って行動できるようなリーダーシップをとれるようになりたいと講演を聞いて感じました。2日目のジャングルからの脱出やNASAの学習においては、グループワークの難しさを知りました。ジャングルからの脱出においては、作業を分担した後自分のところばかりに集中してしまい、他の人

が困っている部分をサポートすることの重要性を知りました。

NASAにおいては、班の中でなかなか意見がまとまらず、最後まで結論が出ないという結果になってしまいました。他人と協調することの大切さを学びました。リーダーシップをとるためには、他人に目を向ける、協調すること、自主性をもつなど様々なものが要求されるのだなと思いました。今の私に、一番足りないものは自主性だと感じています。そのために私はこれから、RACの活動や学生生活において、様々なことに恐れなくて自分から挑戦していきたいと思います。3日間の活動やパパや周りの人からのアドバイスを忘れずに、これから頑張っていきたいです。

（平岩志洵）



パパの一言 小寺史郎

3班の年齢は30歳から19歳、上3名が社会人、下2名が学生、上は率先型、真ん中は扇の要、下は意見を述べながらもついて行くというバランスがとれた構成でした。初日の夕食から3日目の昼食まで食事のタイミングも合うようになり、様々な意見を集約しながら発表できました。

“チーム人見知り”から互いに理解し、尊重し、それを乗り越えたことは、リーダーたるべき者としての勉強になったと思います。尚、パパも良い刺激を受けて精神年齢は10以上若返りました。



第4班「逢-フォン」

名手 郁人 (高槻東 RC 推薦)

小林 崇則 (大阪中之島 RC 推薦)

宮田 祐治 (吹田西 RC 推薦)

標葉 洋一郎 (相馬 RC・東大阪みどり RC 推薦)

田野実 秀介 (東大阪みどり RC 推薦)

刘 娟 (大阪北梅田 RC 推薦)

西村 真理 (大阪御堂筋 RC 推薦)

今回のRYLAは本当に有意義なものになりました。青山先生の熱意のこもった講演で本当に自分の無知さ、物事に対する関心の低さに気づきました。自分の目や肌で感じて、そして考えて行動していく事を学ぶ事ができました。自然の家に到着してから初めてグループのみんなと顔を合わせた時は不安でいっぱいでした。その時に松浦パパからお声をかけて頂いた時は心がホッとしました。

2日目の萩原先生の講演では、まさかこの人が東大阪市と花園ラグビー場をプロデュースされた方とは知らず、いま住んでいる場所は違いますが、高校、大学、会社と東大阪に育ててもらったので、今回の講演を聞いてもっと東大阪を好きになる事ができました。2日目くらいからチームはよそよそしさもなく、

皆が目的に向かって団結できてきていると感じました。

3日目、最後のチーム発表では、今回のRYLAのテーマに反発する、「我々は誇りを失っていない!」という反抗的なテーマを掲げましたが、すごく内容のあるテーマだと思います。皆で意見を交換しあい、共有し、自分たちに足りないところは認め、それでも僕たちは日本人だ、誇りは失っていない!と再認識する事ができました。

RYLAで本当に多くの事を学び、大きく成長できるきっかけを与えてくれました。本当に逢フォンチームでよかったです。有難うございました。

(田野実秀介)



パパの一言 松浦利英

7名の若者と共にレポート作成についての様子を書きます。

「日本人の誇りを取り戻そう」というメインテーマについて、私はこれは今の若者世代が誇りを失っているという前提でのテーマではないか? 君たちにとっては実に不本意なテーマではないのか? という投げかけをし、むしろ若者たちの反発を期待しました。チームの発表は白い紙に大きく「我々は誇りを失っていない」と書かれ、日本の若者は必ず次代を背負う頼もしい存在だと確信しました。



第 5 班「スリー・ストーン」

阿部 正成 (相馬 RC・東大阪みどり RC 推薦)

北野 卓也 (大阪中之島 RC 推薦)

古川 義晃 (大阪西南 RC 推薦)

福原 康浩 (東大阪 RC 推薦)

孫 磊 (東大阪西 RC 推薦)

伊木 章子 (新大阪 RC 推薦)

初めてロータリークラブの存在を知り、今回の秋のライラに参加させて頂いた私がこの機会に得られたものは、大きくわけて次の3つである。対等な関係で意見しあえる同世代の方との繋がり、社会に対し目を向ける重要性、チームワークにおける自分自身の活かし方の自覚だ。

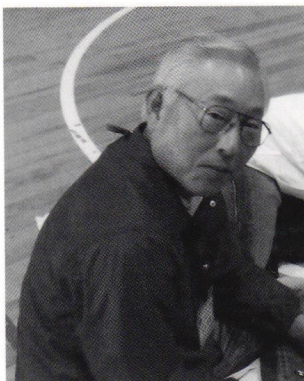
私にとっての一番の収穫は、対等な関係で意見しあえる同世代の方との繋がりであった。元々、今年から社会人となり、新しい環境の中で会社の人・お客様など周囲の人に対し常に気を張って失礼がないように意識していた。そのため、新しく出逢う人と気を許して話をするという事がほとんど無かったが、同じ5班の方々とセッションを共に重ねるにつれて距離が縮まり、最後には冗談を言い合える関

係となってライラを終えることとなった。大学生、中国からの留学生、エンジニア、福島の火力発電所員など、多様なバックグラウンドを持つメンバーとの話は刺激に満ちていたし、同じ社会の中で共に生きている実感を得ることが出来た。

また、第一日目の基調講演青山繁治さんの講演は、私に社会に目を向け自分で考えることの重要性を教えてくれた。2日目のグループワークでは、チームの中における自分の立ち回り方・役割として何を果たすことが出来るかを自覚させられた。

短い2泊3日の期間であったが、多様な価値観やものの考え方に触れ、自分自身を自覚し有意義な時間となった。

(伊木章子)



パパの一言 浜田秀雄

ロータリーパパとしてRYLAに参加していき感じている事は、この行事はグラウンド外で協力するよりも、プレーヤーとしてプレーする事に価値があるなという事です。3日間若者達と共に過ごしてみて実感したのは、彼等も参加した人達から大いに学ぶ事が出来たでしょうし、得た知識も多かったでしょうが、我々の方が彼等以上に得るものが多かったのではないかと、そして行動する事の大切さを教えられた意義のある数日間でありました。

チームライラの頁

【チームライラとは】

- 今から10数年前に、当時の地区青少年活動委員長より青少年活動財団に任せていた準備やプログラムの作成を将来的にオリジナルで行うための実行部隊として、上級ライラ修了者の会(上級修了生の同窓会)を母体とし結成されました。
- 初級RYLA・上級RYLAへの参加及びスポンサー地区での報告会を実施したものが、チームライラになる資格を得ることができ、チームライラに参加することで自己の継続的なリーダーシップの開発に取り組んでいます。
- 今回の秋のRYLAは、初めてチームライラ主導プログラムを企画した開催となりました。

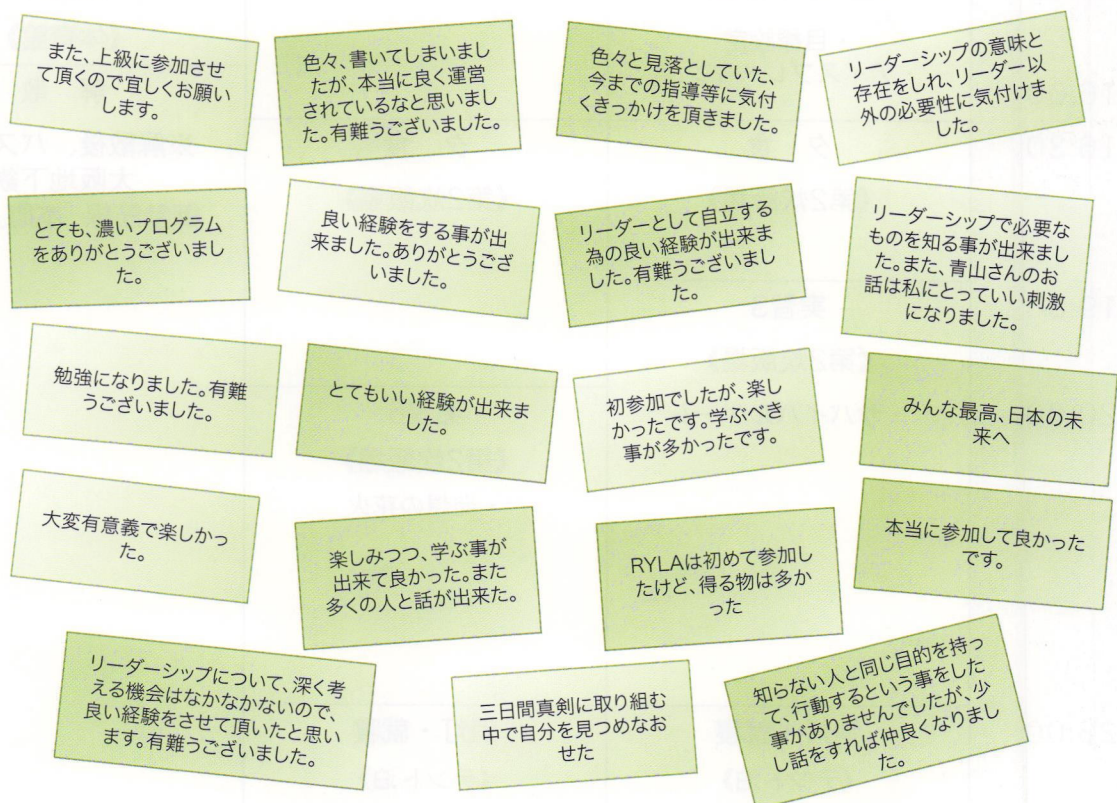
【初級RYLAの概要】

初級RYLAは、集団におけるリーダーシップを学ぶ2泊3日の合宿セミナーになります。各種基調講演やチームでの活動を通じて、「コミュニケーションの取り方」や「リーダーシップとは何か」について考えるきっかけを提供します

【上級RYLAの概要】

上級RYLAは、初級RYLAを受講した参加者のみが進むことができる応用編になります。初級RYLAが室内で実施するのに対して、上級RYLAは自らがテントを設営し、仲間と共に野外で生活するキャンプスタイルのセミナーになります。

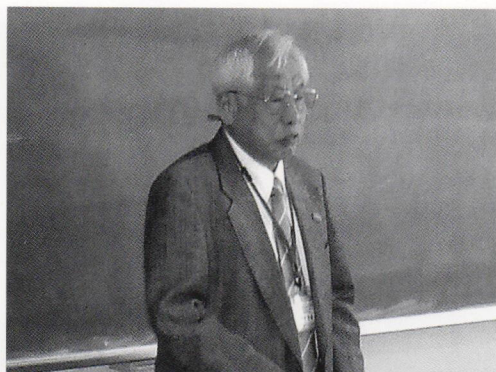
【受講者の感想の一部です】



2011秋RYLA 上級プログラム

時 間	10月8日(土)	10月9日(日)	10月10日(月・祝)	
6:00	《大阪府立少年自然の家》		起床・朝の集い 《多目的広場》	
7:00		起床・朝の集い 《多目的広場》		
7:30				
8:15		朝食《本館食堂》	朝食《野外料理》	
9:00		実習4 《多目的広場》	入 浴 《ほの字の里》	
10:30		参加者集合・受付	・ What's my communication Style?	実習7 《談話室B棟1階》
11:00		開講式 《研修室(中)》		・ 振り返り
12:00		昼食《本館食堂》	昼食《本館食堂》	昼食《本館食堂》
12:30				
13:00		実習1 《多目的広場》 ・ テント設営	実習5 《多目的広場》 ・ PDCAウオーク	実習8 《談話室B棟1階》 ・ 研修成果まとめ
14:30	実習2 《多目的広場》	・ グループ発表		
15:00	・ 目標設定 ・ アイスブレーキング		閉講式 《体育館》	
16:00			解 散	
16:30	夕 食 《第2炊飯場》	夕 食 《第2炊飯場》	※解散後、バスにて 大阪地下鉄 御堂筋線「本町」駅へ	
19:00	実習3 《第2炊飯場》			
20:00	・ サバイバルゲーム	実習6 《第2炊飯場》 ・ 発想の花火		
23:00	消灯・就寝 《テント泊》	消灯・就寝 《テント泊》		

上級ライラ活動報告



開講挨拶 清水宏彦



地区青少年活動委員会

副委員長 植田昌克

このたび、上級ライラの全プログラムを受講生と共に過ごしました。テント設営方法の説明を受けた後に各自でテントを設営し、受講生が全員参加で作ってくれた野外料理に舌鼓を打ち、PDC Aウォークでは2チームに分かれて午前午後2回、裏山の展望台を目指して最適なルートを探りながらタイムを競いました。若い受講生と寝食を共にした2泊3日はとても新鮮で、テント設営後のアイスブレイキングで設定した自分自身の目標設定「若返る!」は、見事に達成することができました。

若い世代のリーダーシップの可能性を伸ばすために設けられているRYLAの意義を実体験でき、そして何よりも、そのプログラム作成に当たりチームライラの皆さんが陰ながら長きに亘って準備されていたことを深く知ることができました。



上級ライラ参加者

河田 慈人 (大阪ユニバーサルシティ RC 推薦)

木村 悠太郎 (吹田江坂 RC 推薦)

堀内 梨花 (大阪御堂筋 RC 推薦)

劉 平 (東大阪みどり RC 推薦)

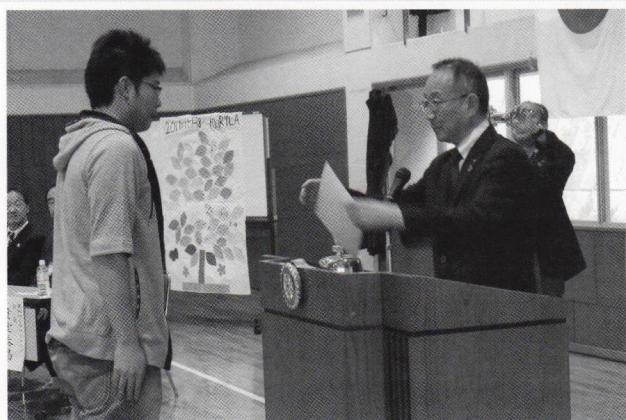


食事風景

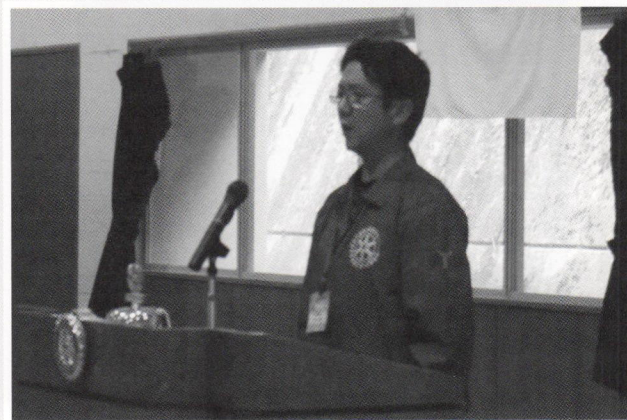


発表

閉講式



修了証授与



ソングリーダー
竹内靖剛



チームライラ チームリーダー
小仁 聡



春のライラ ホストクラブ
箕面ロータリークラブ
会長 黄堂泰昌



参加者全員

ガバナーエレクト挨拶 ライラに期待すること

RI 第2660地区ガバナーエレクト
高島 凱夫

RYLAにご参加の皆様、3日間ご苦労様でございました。この3日間、事故・病気・けがなどがなく、無事終了しようとしていますことは、本当に喜ばしいことです。先程の、研修成果発表では、皆様方のアクティビティーに溢れるお話しをお聞きし、チームワーク、コミュニケーションなどの大切さ、加えて国を超えた友好・親睦の大切さも学ばれ、このRYLAを十分に満喫されたことと思います。

D2530 相馬RC 新世代委員長武島昭良様とご一緒に参加された相馬市の5名の皆様方、大阪でのRYLAは如何でしたでしょうか？初級RYLAの皆さんも震災・原発事故の様々な話を聞く機会を得たことでしょう。感謝申し上げます。相馬に帰られますと、厳しい現実が待っていると思いますが、今回学ばれたことを十分に生かしてご活躍されることを期待申し上げます。

昨年度から、ロータリーの骨組みに「新世代」奉仕という項目が加えられました。このRYLAのように、青少年の新しい指導者を育成する、あるいは留学などを通じて世界の人々と友好・交流をはかる、ということに加えロータリアン＝大人が、青少年の中には、将来立派な社



会の指導者になりうる若者がたくさんいることを認識することが目的と思われます。このような場にまいりますと多くの立派な若者がいることを再認識させられます。33名の初級RYLAを受けられた方々は、是非上級RYLAへのステップアップをはかって下さい。上級RYLAを受講された皆様は、今までのRYLAで身につけた指導力をライラリアンとして十分に発揮されますことを期待いたしています。また、ローターアクトクラブ、ロータリークラブへの入会をしていただき、素晴らしい社会の指導者になって下さい。

ご協力いただきました「大阪府立少年自然の家」の関係者の方々、基調講演のお二人の講師、素晴らしいプログラムを企画し運営をされた東大阪みどりRC 井上 善博会長初め会員の皆様のご苦労に本当に感謝申し上げます。新庄地区青少年活動委員会委員長はじめ委員会の皆様、チームライラの皆様、インターアクト、ローターアクトの皆様、有難うございました。

来年の春のRYLAは、箕面RCがご担当で開催されます。ご準備よろしく願いいたします。

委員長講評

青少年活動委員会委員長 新庄 幸一



2011～12年少年秋のライラは、準備期間の少ない中、東大阪みどりロータリークラブの皆さんの一丸となったホストにより、2011年10月8日から10日までの日程で、大阪科学技術センター及び大阪府立少年自然の家において、福島相馬RC推薦の受講生5名を含め、開催されました。

受講生はどんな人たちと生活を共にするのか、どんなことをするのか期待と不安で開講式に臨み、岡部ガバナーの挨拶を緊張感で聞いていました。

青山先生の話は迫力に充ち、日本人の誇りを取り戻そうという総合テーマで、祖国は甦るとい講演テーマのもと、先生の迫力に受講生の皆さんも、会場のロータリアンも飲み込まれました。原発問題については、体を張った取材を基に100年後まで住民が地域に生きる復興のあり方など、胸に残る基調講演となり時間を忘れていました。

夜の実習では、すぐに打ち解けた雰囲気となり、チームの結束を強めるアイスブレイキングでは、綺麗な信頼の輪が出来上がりました。

2日目のプログラムは、萩原先生の経験に裏打ちされた、まちの要素を掛け合わせ化学反応を起こすまちづくりのあり方、テーマを持った街

づくりのお話は、「ありがとう」の哲学と共に心に響きました。午後の実習では、診断ツールを用いて、自分のコミュニケーションスタイルを診断することで、強みを伸ばし弱みを無くすことを認識し、ジャングルからの脱出では、個人の特徴を生かして、協働作業を通じてその大切さを学びました。夜の「ロータリークラブとは」の講演は、杉森直前会長からロータリー精神を学び、ロータリアンとの座談会では、ロータリーパパの真摯な姿勢に受講生は、何かを掴んでくれたものと思います。

閉会式では、講評を大谷パストガバナーより頂き、高島ガバナーエレクトには修了証書授与を行って頂き、相馬RC武島様、ローターアクト、チームライラのご挨拶の後、東大阪みどりRC井上会長から次回2012春のライラをホストして頂く、箕面RC黄堂会長へライラ旗が引き継がれ、井上会長の閉会の辞で幕を下ろしました。

最後に、心に残るライラを大成功に導いて頂いた地区委員、会長、ロータリーパパを兼務された井上会長、冷静にライラを導かれた北井実行委員長をはじめ東大阪みどりロータリークラブの皆様に、衷心より感謝して講評といたします。

パストガバナー挨拶 ライラについて

RI 第 2660 地区パストガバナー
大谷 透

今年のライラで特に印象深かったのは、開講式での青山繁信氏の基調講演で、今回の主題に沿った強烈なインパクトが与えられ、その余韻がその後のプログラムが終わるまで残っていたような気がしています。それは最後の発表会での各班からの活動報告を聞いて感じたことでした。各班の発表後に、それぞれの班のロータリーパパが所感を述べられましたが、皆 違口同音に若者との交流を通して学ぶことが多かったと語っておられました。



このfeed backが大切なのです。若い参加者たちもロータリアンと寝食を共にすることにより、リーダーとしての心得を学び、共にリーダーとしての資質を自らに問いつつ“心の中をみつめる”よい機会を持てたようでした。

とにかく此の度のライラには感動させられました。企画・運営をご担当くださったホストクラブの東大阪みどりRC会員の皆様とチームライラの方々の情熱に深甚の敬意を表する次第です。

ローターアクト代表挨拶 ローターアクトについて

ローターアクト代表
古川 義晃

皆様、2泊3日の研修お疲れ様でした。ローターアクトとは、18歳～30歳までの青年男女が集まり、奉仕活動と親睦を通じて地域社会における将来のリーダーを育成することを目的とした団体であります。ローターアク



トの活動といたしましては、月2回行われる定例会で奉仕活動について企画することや、地域のお祭りやチャリティーバザーの参加、地域の清掃活動、献血PR活動などを行っております。

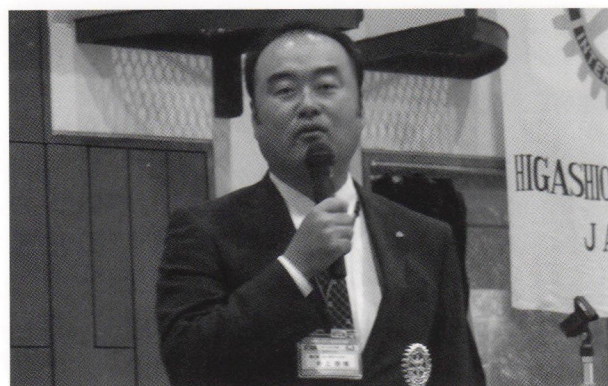
閉会の辞

東大阪みどりロータリークラブ 会長 井上善博

受講生の皆様、RYLAの三日間本当にお疲れ様でした!「日本人の誇りを取り戻そう」というテーマでリーダーシップについて一緒に勉強してまいりましたが、最後の発表を聞かせて頂き本当によく学んで頂いたと実感し、感激いたしております。

皆様の表情を見ますと、非常に晴れやかな笑顔をされているので、それだけでも成功だったと思います。個人的にはロータリーパパも担当させて頂き、若い人たちと間近にふれあい、刺激と感動をおおいに受け、思い出深い、記憶に残る充実した三日間となりました。

RYLAが本当に成功したかどうかというのは、皆様の今後の姿に反映されると思います。



人生で苦しい時、壁に当たった時、また責任ある立場に立たされた時に、ふとこの三日間のことを思い出して頂き、突破口になるきっかけに繋がった時に初めて成功したと言えると思います。

皆さん人生を大いに楽しんでください。

最後になりましたが、新庄委員長はじめ、地区青少年活動委員会の皆様、事務局の皆様、関係各位のRC会員の皆様、府立少年の家のスタッフの方々、ご指導・ご協力を頂き、本当にお世話になりました!特にチームライラの皆様には最大級の賛辞を持ってお礼を言いたいです。ありがとうございました!



手に手つないで つくる友の輪 輪に輪つないで つくる友垣
手に手 輪に輪 ひろがれまわれ 一つ心に おゝ ロータリアン
おゝ ロータリアン

クラブ別登録・受講者数一覧表

	クラブ名	登録者数	初級	上級
1	大東	0		
2	大東中央	3		
3	東大阪	5	2	
4	東大阪中央	3		
5	東大阪東	31		
6	東大阪みどり	26	1	1
7	東大阪西	6	1	
8	枚方	20		
9	茨木	3		
10	茨木東	3		
11	茨木西	3		
12	池田	4		
13	池田くれは	2		
14	門真	3		
15	交野	1		
16	香里園	3		
17	くずは	3		
18	箕面	25		
19	箕面中央	0		
20	守口	3		
21	守口イブニング	3		
22	寝屋川	3		
23	大阪	3		
24	大阪中央	17		
25	大阪堂島	3		
26	大阪フレンド	3		
27	大阪東	3	1	
28	大阪東淀ちゃやまち	3	1	
29	大阪平野	3		
30	大阪本町	3		
31	大阪イブニング	3		
32	大阪城南	10		
33	大阪城東	3		
34	大阪柏原	5		
35	大阪北	3	1	
36	大阪北梅田	2	1	
37	大阪御堂筋	3	2	1
38	大阪南	5	2	
39	大阪中之島	3	3	
40	大阪難波	16		
41	大阪なにわ	3		

	クラブ名	登録者数	初級	上級
42	大阪南西	3		
43	大阪ネクスト	0		
44	大阪西	1		
45	大阪大手前	3		
46	大阪大淀	57		
47	大阪リバーサイド	3		
48	大阪咲洲	3	1	
49	大阪西北	3		
50	大阪西南	5	1	
51	大阪船場	3		
52	大阪心斎橋	3		
53	大阪城北	5		
54	大阪そねざき	0		
55	大阪天満橋	4		
56	大阪天王寺	3		
57	大阪帝塚山	3		
58	大阪東南	5		
59	大阪鶴見	2	1	
60	大阪梅田	5	1	
61	大阪梅田東	3		
62	大阪うつぼ	3	1	
63	大阪淀川	3		
64	大阪ユニバーサルシティ	2		1
65	千里	3		
66	千里メイプル	3		
67	摂津	1		
68	四条畷	3		
69	新大阪	3	1	
70	吹田	1		
71	吹田江坂	20	3	1
72	吹田西	2	3	
73	高槻	3		
74	高槻東	2	4	
75	高槻西	3	1	
76	豊中	3		
77	豊中南	3		
78	豊中 - 大阪国際空港	3		
79	豊中千里	5		
80	八尾	11		
81	八尾中央	4		
82	八尾東	3		
合計		446	32	4
招待	相馬		5	
総合計		446	37	4

御礼の手紙

相馬ロータリークラブ 武島昭良

このたびは、震災の中で沈みがちな相馬地区の若者の中から5名を第2660地区ライラにお招き頂き、誠に有難うございました。引率責任者の私を含めて大阪での3日間を東大坂みどりRCの皆様にお世話になりました。

3月11日に発生しました忌まわしい「東日本大震災」から7ヶ月が経過し、雪の舞い散る寒い時期から、梅雨、盛夏そして柿の実る秋となりました。

本日、市役所から各世帯に災害の中間報告書が届きました。私が想像していた以上に市役所の中では緊急を要する事態が数多く発生したことが記録され、当時のホワイトボードの走り書き等の写真の頁には、〇〇地区では女性の方が引き波で行方不明、〇〇ショッピングセンターでは壁が崩落し20代女性が死亡とか記録されていました。

今回の講演で、青山先生が北朝鮮の拉致事件を絶対に忘れてはならないと語っておられ、その時々ではしっかりと事件性を認識している

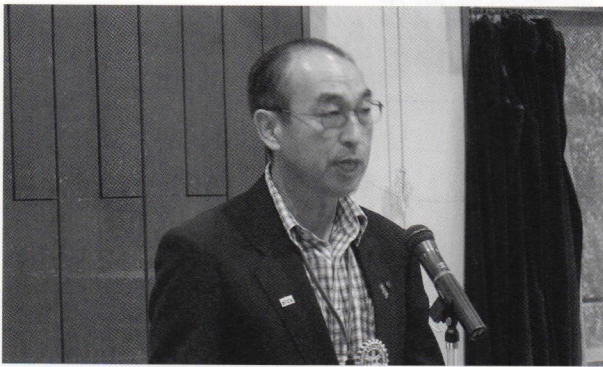
のですが、自分の大きな事が起きてしまうとどこか頭の片隅に行ってしまう、当事者の方には大変申し訳なく思うことが多々あります。今回の大地震、津波、原発の放射能汚染と福島県にとっては、この先、県としてどのように成り立っていくかという不安があります。

また、萩原先生が何故ラガーシャツを着用されたのかと聞いていましたら、20数年前に須賀川での講演の中で花園ラグビー場のことをお話されたのを思い出し、花園は東大阪市だと再認識いたしました。

杉森直前会長のお話の中で、人間に生まれて来たことが奇跡なんですということ、これは参加者のほぼ全員の人達が言われてみなければこのことを認識しなかったのではないのでしょうか。

今回の災害がなければこのような企画に参加することもなかったでしょうし、南相馬市以南が放射能汚染されてなければ、私が行くこともほぼ100%なかったと思います。相馬





ロータリークラブの中でも種々な偶然が重なり私が行くことになり、皆様と三日間の時間を共有することが出来ました。

帰る途中で受講した若い人達から「相馬にもローターアクトを作ってください」と話が出ました。今回のライラの効果は極めて大でした。

かつて相馬にもローターアクトは存在し、私の妻は初代の副会長でした。当時は相馬・相馬東RCが相馬ローターアクトを創立し、50名以上の会員でスタートし、ローターアクトの予算については、相馬・相馬東RCで負担

し、盛大にチャーターナイトを行った記憶があります。その後不景気の風が吹き、ローターアクトよりも両RCとも会員数が減り、ローターアクトを支えられなくなり、更に入会する方も減り、退会し、そして自動消滅いたしました。

今回の声を聞いて、再度ローターアクトクラブを作るなら前の轍を踏まないよう、地に足をつけて末永く続けられるローターアクトの在り方を勉強しようと思います。

それがこれからの相馬・福島再生のため、そして今回ライラに招聘して頂いた意義を最大に活用することになると思います。

近々に、若者5人と会食し、これからのことを話し合う予定です。今回の皆様との出会いにより言葉では言い尽くせない程の沢山のご厚情を頂きました。心より感謝申し上げます。有難うございました。



ライラ受講生から福島の方々に送られたエール

2011年 秋のライラ 収支決算報告

収入

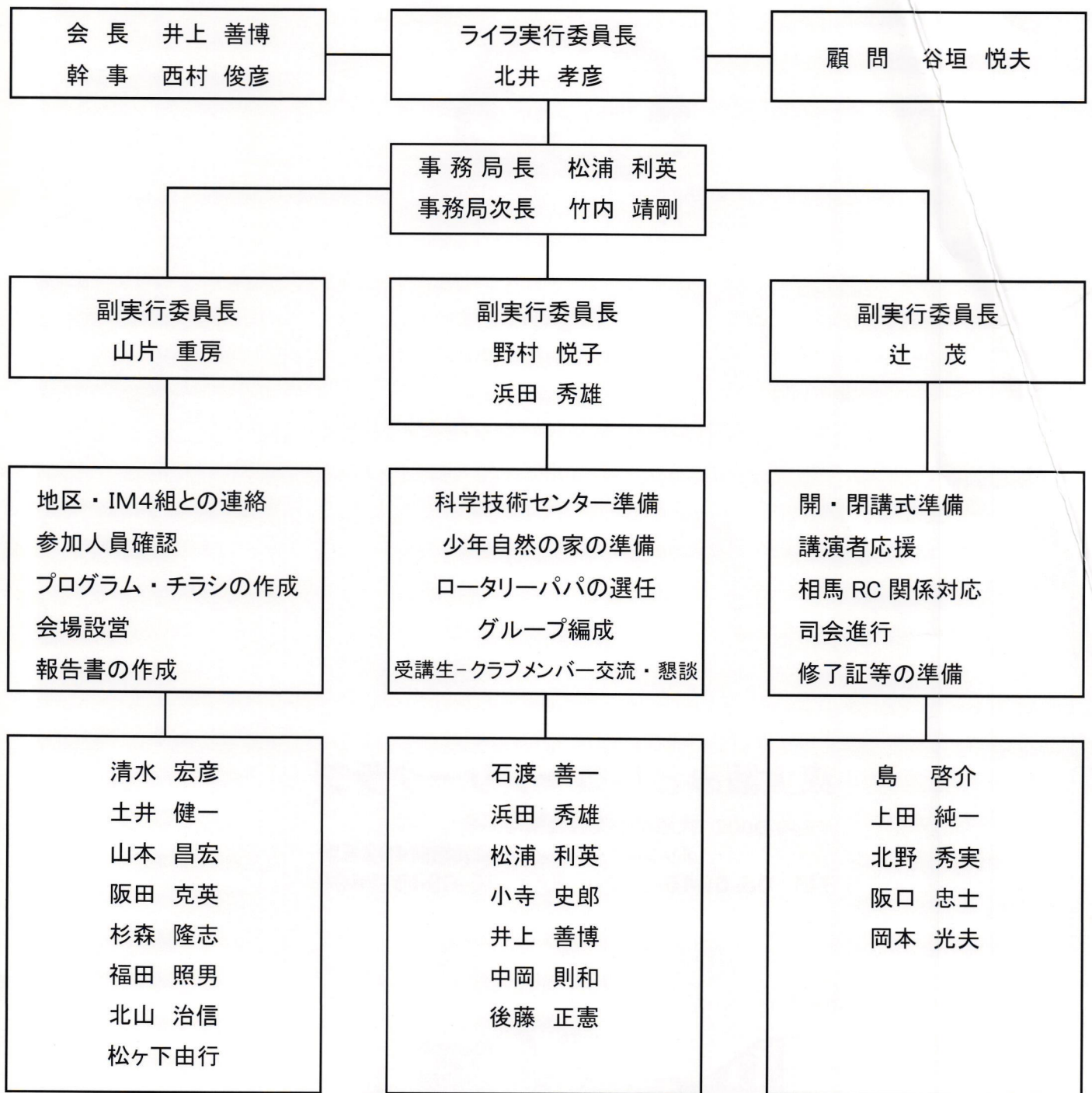
地区補助金			1	式		1,500,000	
地区上級ライラ補助金			1	式		100,000	
登録料	ロータリアン登録料	6千円 / 1人	446	人	6,000	2,676,000	
	上級ライラ登録料	2万円 / 1人	4	人	20,000	80,000	
	初級ライラ登録料	8千円 / 1人	32	人	8,000	256,000	
						計	4,612,000

支出

※一部未確定な項目があるため変動があります。

ライラ運営費用	基調講演		1	式		910,200	
	講演		1	式		331,900	
	印刷費		1	式		806,925	
	貸切バス		1	式		89,900	
	ホール使用料等	大阪科学技術センター	1	式		324,345	
	宿泊費等	府立少年自然の家	1	式		527,220	
	傷害保険		1	式		45,000	
	福島支援		1	式		353,960	3,389,450
消耗品購入費用	Tシャツ岩手		1	式		190,000	
	その他	飲物等	1	式		59,700	
	名札		1	式		16,940	266,640
事務経費	通信費	郵送	1	回		56,000	
	渉外費	メイクアップ	1	式		197,400	
	会議費	地区委員会等	1	式		75,327	
	事務費	コピー代等	1	式		53,857	
	事務用消耗品費		1	式		23,326	405,910
青少年委員会活動費	チームライラ		1	式		350,000	
	国際ライラ活動補助金		1	式		200,000	550,000
						計	4,612,000

東大阪みどりロータリークラブ ライラ組織表



会長 井上 善博
幹事 西村 俊彦

ライラ実行委員長
北井 孝彦

顧問 谷垣 悦夫

事務局長 松浦 利英
事務局次長 竹内 靖剛

副実行委員長
山片 重房

副実行委員長
野村 悦子
浜田 秀雄

副実行委員長
辻 茂

地区・IM4組との連絡
参加人員確認
プログラム・チラシの作成
会場設営
報告書の作成

科学技術センター準備
少年自然の家の準備
ロータリーパパの選任
グループ編成
受講生-クラブメンバー交流・懇談

開・閉講式準備
講演者応援
相馬 RC 関係対応
司会進行
修了証等の準備

清水 宏彦
土井 健一
山本 昌宏
阪田 克英
杉森 隆志
福田 照男
北山 治信
松ヶ下由行

石渡 善一
浜田 秀雄
松浦 利英
小寺 史郎
井上 善博
中岡 則和
後藤 正憲

島 啓介
上田 純一
北野 秀実
阪口 忠士
岡本 光夫



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

東大阪みどりロータリークラブ

〒540-0007 大阪市中央区馬場町1-8

メゾン・ド・ヴィレ大阪城公園前402号室

TEL:06-6945-1800 FAX:06-6945-1808



HIGASHI OSAKA MIDORI ROTARY CLUB